

West wood

Doc 8101

1/1/1

平成二十一年一月一日、鹿屋空港 行き際

ASW 01366913

私へ化四十三年(昭和十七年)十一月十六日から四五年
(昭和二十年)五月迄此、駿河折(大庭梅園)二度も立矣。
此度二八米軍、各兵特、將兵四百六十名分居立矣。
小屋三七而七寒生人候二八亦余子アリ也。事
務者人九人奉公、四十歳カヨリ三十歳、温泉三村
御者少守山越勝前衣服ヲ着テ居多太ア
リス。少々懶テ(華就)半二歳三歳下の子等も居
る。米八九有量分提供サリヨリ分給食八番自
上脂肪不足言也アリ也。二今日本兵が衛
事員上に立居トガラ日本人民二一向医療、
平素不吉セドモ。連例内不毎日午後四時半
カヨリ午後八時迄使用許可ナシ少數ノ子等
火餅、外人何等保溫方法ハ講ニナリス
セテヨ。之等火餅八十日六本ヨリ子七時半
事務所ノ三段カヨリ登以上、温泉八七十九カヨリ半
丁度。連例内不、絶情人數七十七下三十

★

8月10日

No. c

約二十九日本某小商處にて銀行劫了事
アリス一人如何運営七十人以下アリ又室内十
帽子ヲ被シ手袋ヲカツカ腰袋又拳套又拳頭二十布
樹子手袋多分二十云ノ都ト運営二十七歳女子アリ又
三女絶命歌アリヨリ平手町手立會にて事件始
事。

收容所にて本年二月一日初之總了歩行者
ノ行楊易偷隊二編成サレ日本通運株式會社附
屬、九通會社三階八丁大派門十二件物取、何レ
力ニ派遣市立三交之傳八人食具、身体、牀席心不
考慮セバ勿論車上林中持、使用、下ニ實勞勸送
行セテテ一月半月足又。病氣者運入特ニ左待下
アリ。一九四三年(昭和十八年)二月一日墳二丁、兩人が
帶領カラ運上歸乙、民間カラ來乍居、收容所、通
訊解説自転車二臺ソラモテ運ヒリ者が乙
ト機械廿台ヲ輸送シ行方不明、追亡見立
テ記憶ニシテ之又。小田中紹、總手澤村ナシタ木
森、伊藤、一山カラ多御令達一合アリ也計二十分或

16.2

★
8月10日

衛生隊、軍曹三人、一九四二年（昭和十七年）八月三十日
午後一九四三年（昭和十八年）八月三日正午

クダリ、本多綱子、兩人起立して外に出る。里程
離合走川流域にて行進せり。二十時半から一時半
向体操ヲセラミ。三十支艇足で収容所二号ヲ
セタ。テアリス。落伍者一人、頭に銃弾を打たれ、左耳が收
容所送ヤシト助生下傷ル。右耳有病アリマシ。
其結果多く者重正病院又其他の重病者
未開院ニ恶化し死んで行クアリス。山田公収
容所長アリ木原公也秀アリマシ。

一九四三年（昭和十八年）四月十日午後、別日本陸軍、
兵士アリ左上脚二大キ傷痕アリ二十五才位、
新屋上云々軍医が來云々彼久絶工之縄子、兩人
及巡游班二機砲アリマサ。彼久縄子下の患者
カラ食物取ル。他者ナリマシ。病氣ナリ
割合上半時間乃至二十四時間、向病人ノ付
丁等御立名を云此一様に取扱はれ、諸果ト
シテテ乞入紙手續アリス。」八二十四時間以内付

11.3

Doc 8101*

ノリタケ其の翌日、一九四三年（昭和十八年）三月五日 肺炎
デス。ダカ六十七歳 海岸砲兵（高射砲兵）一九〇二年一

日本人、幹部、者達へ規則的三兵士、前テ米人將校ヲ嘲罵シ又ハ刑罰ヲ加ヘ牧容所ニ於ケル士氣立ニ組織ヲ順次破壊シテ居リアリ。

一九四四年(昭和十九年)十月一日頃青木隼辰が収容所に来シタ。彼は松山知事にて、中止最も飛走十日本人アリマシタ。一九四五五年(昭和二十一年)二月中ノ或時、例ナリマスカタ方點呼、時ニ「S' 海兵三〇四丁」。

タナカ其時軽々下痢三回ツ居リマニタが便所二
行ヤ亥イトハタチ列中カラ引十出サレマシ。青木ハ彼
ヲ外ニ連シ出シ山田、島吉上緒ニタナケト一腕ト
ノ重棒テ殴シテ其手十二腕八厘ヒ上ツテ後ニ立
タナタナシ江蘇ヒマシ。松タナラ數日同病院テ
食事直シミタ。彼「自分テ食事を出来マセドミタニ其
他角七走セマセドミタ。之ハ青木カノ共ニシクタリ、
極端ニ強度左取扱、一例ニ過ヤ十人ナアリス。